

## 带状疱疹の予防接種をご希望の方へ（説明書）

接種には本人の意思が大切です。接種を検討している方は、本説明書や製薬メーカーが作成したワクチンごとの説明資料でワクチンの効果や副反応の詳細をご確認ください。

なお、同封している予診票は2枚ありますが、これを使用できるのは封筒が届いたご本人様に限ります。接種するワクチンの種類によっては1枚余る場合がありますので、余った場合は必ず破棄をお願いします。

### 1. 带状疱疹について

带状疱疹は、水痘（みずぼうそう）のウイルスが原因で起こります。水痘が治った後もウイルスは体内に潜伏していて、加齢や過労、ストレス等で免疫力が低下すると、ウイルスが再び活性化して带状疱疹を発症します。

発症すると、体の片側に水疱を伴う紅斑が帯状に広がり、痛みを伴うことが多く長期間続きます。症状の多くは上半身にあらわれますが、顔や目、頭などにあらわれることもあります。

### 2. ワクチンの効果について

水痘・带状疱疹ウイルスに対する免疫が増強され、带状疱疹の予防が期待されます。

### 3. ワクチンの種類・効果と副反応

ワクチン種別	乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」（生ワクチン）	乾燥組換え带状疱疹ワクチン「シングリックス」（組換えワクチン）
接種方法	皮下注射	筋肉内注射
接種回数	1回	2か月以上の間隔をおいて2回
発症予防効果	接種後1年時点 約60% 接種後5年時点 約40%	接種後1年時点 約90% 接種後5年時点 約90% 接種後10年時点 約70%
持続性	5年程度	10年以上
副反応	注射部位の発赤、掻痒感、熱感、腫脹、疼痛等 重大な副反応として、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病等があらわれることがある。	注射部位の疼痛、発赤、腫脹、筋肉痛 重大な副反応として、ショック、アナフィラキシー反応を含む過敏症状があらわれることがある。

※裏面へ続く

#### 4. 予防接種を受ける前に

##### ① 予防接種を受けることができない方

- ・明らかに発熱している方（一般的に、体温が37.5℃以上）
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方
- ・ワクチンに含まれる成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある方
- ・その他、医師が不適當な状態と判断した方

##### ② 接種前に医師に相談が必要な方

- ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患がある方
- ・過去の予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた方や、全身性の発疹などアレルギーが疑われる症状が出たことがある方
- ・今までにけいれんを起こしたことがある方
- ・過去に免疫不全と診断されたことがある方、もしくは近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ・このワクチンに含まれる成分でアレルギーを起こすおそれのある方
- ・血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を施行している方（※乾燥組換え帯状疱疹ワクチンを接種する方）

#### 5. 予防接種を受けた後の一般的注意事項について

- ・接種後30分程度は様子を観察し、アレルギー反応などがあれば医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ・乾燥組換え帯状疱疹ワクチンを接種された方は、接種後に注射による心因性反応を含む血管迷走神経反射として失神することがあります。失神による転倒を避けるため、接種後30分程度は背もたれのある椅子に座って、体調の変化がないことを確認しましょう。
- ・接種当日は激しい運動は避け、接種部位を清潔に保ってください。接種当日の入浴は差し支えありません。
- ・接種後に接種部位の異常な反応や体調の変化、高熱、けいれんなどの異常な症状があらわれた場合には、すぐに医師の診察を受けてください。

#### 6. 予防接種健康被害救済制度について

・予防接種では健康被害（疾病、障害又は死亡）が起こることがあります。極めて稀ではあるものの、なくすことができないことから、救済制度が設けられています。

定期の予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合は、予防接種健康被害救済制度により、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

申請手続き等については、住民登録のある市町にご相談ください。